

# 選挙に行かないと損をする？

東京都立中学校教諭

### はじめに

「選挙に行く生徒を育てる」ということは、われわれ社会科教員にとってみれば、よりよい主権者の育成という観点からみても当然のことでもあるし、そうでなければならない。しかし、現状では教科書の資料でも掲載されているとおり、投票率が低いのが日本の選挙の問題点の一つである。そのなかでも、若年層の投票率はきわめて低い。中学生にとって選挙というものは、政治に対して意思を表明する大事な方法と知りつつも、この問題は切実感がなく、実感がわかないのが問題ともいえる。そのため、選挙権が行使できる年齢になっても、自分の予定を優先して選挙に行かない。

しかし総じて、公民的分野の学習はこのようなことが多くある。教員としては、社会に出てからとても役に立つ重要な教科と感じているにもかかわらず、生徒にとっては公民的分野の学習は身近に感じられず、社会を構成する主権者という意識が低いままである。

ここで紹介する授業は、政治単元の最後の学習内容、平成24年度用『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）p.98「政治参加のあり方」である。本授業では、近年問題となっている「若者の投票率の低下」を通して、有権者、立候補者それぞれの立場からこの問題

をとらえ、1票のとうとさを考えるものである。

生徒に切実感をもってもらうために、立候補者は投票に来ない世代をどのように思うかを、シミュレーションを通して考える。結局は選挙に行かないと自分たち（若い世代）が損をする社会になる、といったことを理解させることを最終的なまとめとしている。

もちろん、「投票率の低下＝損をする」というのは、一面的な側面でしかとらえてないことは承知だが、この選挙の投票率低下の問題を損得勘定でとらえる一面も重要だと思い、「生徒たちが主権者としての自覚をもって選挙に行く＝社会参画意識の育成につながる」と考え、この授業を構成した。

## 2 本時の指導

(1) 主題 選挙に行かないと損をする？

(2) 本時の目標

ア 日本の選挙における問題点を理解する。

【知識・理解】

イ 投票率の低下を身近な問題として考え、主権者として選挙の意義をとらえることができる。【思考・判断・表現】

(3) 本時の指導

		学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意	評価
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のない人は寝ていてくれ？</li> <li>・投票率の低下について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「(選挙に) 興味のない人は寝ていてくれ？」というある政治家の発言の意味を考える。</li> <li>・ある政治家の演説内容を聞き、教科書p.98の投票率の変化のグラフを読み込む。投票率の低下が問題になっていることに気づく。</li> <li>・なぜ投票率が低いといけないうのか考え、意見をまとめる。〔次ページワークシート①〕</li> <li>・なぜ投票に行かないのか考え発言する。〔ワークシート②〕</li> <li>・自分自身が20歳以上と仮定して、投票日に大事な用事が重なっていたらどうするか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演説内容と教科書の内容は異なったことを主張していることに気づかせ、疑問をもたせる。</li> <li>・自分の意見が書けない生徒に対して助言を行う。</li> <li>・とくに若年層の投票率の低下が深刻なことを補足する。</li> <li>・事前に教員からとったアンケートを読み、さまざまな事情から投票に行けないことを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲・態度 【観察】</li> <li>・思考・判断・表現 【ワークシート・発言】</li> </ul>
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治家になろう！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙の投票率の低下について、候補者の立場から考える。</li> <li>・実際に立候補することをシミュレーションし、どんなことを政策(公約)として有権者にアピールするか考える。(個人作業)〔ワークシート③〕</li> <li>・書いたら近くの生徒と意見交換を行う。</li> <li>・班で先生から配られた各世代別投票数の資料(図1、2)からも一度改めて政策(公約)考え、発表する。(グループワーク)〔ワークシート④〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習として、衆議院・参議院は何歳から立候補できるかなどを聞く。</li> <li>・教科書p.100の「1公約をつくらう」を参考にするように指示する。</li> <li>・何人かの意見を発表させ、クラスで意見の共有を図る。</li> <li>・ただ書かせるのではなく、なぜその政策(公約)になったのか理由も考えさせ書かせる。</li> <li>・なぜそのような班の意見になったか理由も述べさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解 【発言】</li> <li>・思考・判断・表現 【ワークシート】</li> <li>・技能、表現 【ワークシート】</li> </ul>
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちはこの世に存在しない？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の発表を聞いて改めて投票に行かないということはどのようなことなのか考える。〔ワークシート⑤〕</li> <li>・導入であった政治家がなぜあのような演説を行ったのか考え、発言する。</li> <li>・投票に行かなければ、政治に対して自分たちの存在をアピールすることができないことに気づく。</li> <li>・先生の話聞き、学習した内容をまとめる。〔ワークシート⑥〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投票に行かないことは、自分たちの考えを政治に反映できず、そのことにより自分たちの世代に向けた政策も実施されにくいという面があることに気づかせる。</li> <li>・投票率が低い世代に対して政策(公約)を掲げても当選しづらいという立候補者の立場も理解させる。</li> <li>・浮動票の行方によって、自身や自身の政党が落選・議席減少などの不利益があるかもしれないことから、あのような発言になったことに気づかせる。</li> <li>・投票に行かないことが、世代間の受益格差で若年層が不利益を被っていることの一環であることを補足する。</li> <li>・時間があれば一票の格差にもふれ、選挙制度の問題点を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断・表現 【ワークシート】</li> <li>・知識・理解 【ワークシート】</li> </ul>

地理

歴史

公民

地図

社会科

【公民ワークシート】

## 選挙に行かないでくれ！？

①なぜ投票率が低いことが問題なのだろう？？

でも……

②

## ☆政治家になろう☆

③

理由

④

⑤投票に行かないってことは……

⑥今日の授業をうけて、学んだことや思ったことをまとめてみよう！

### (4) 本時の評価

- ・若年層の投票率の低下を身近な問題としてとらえ、1票のとうとさに気づくことができたか。【思考・判断・表現】
- ・日本の選挙における問題点を理解することができたか。【知識・理解】

## 3 資料の効果的な活用について

次のグラフ(図1、2)は、生徒に政策(公約)を考えさせるときに配った資料である。

図1は、2009年第45回衆議院議員総選挙の各世代別有権者数と投票者数を表したグラフである。これを見て20代は、有権者の約半数は選挙に行っていないことをつかませるねらいがある。

図2は、この衆議院議員総選挙の50~70代、20~40代の実際の投票者数と、80%仮定時投票者数(各年代の有権者の80%が投票に行った場合の数)である。

これを見ると、50~70代の実際の投票者数と80%仮定時投票者数はほとんど変わらない

図1 第45回衆議院議員総選挙（2009年）における各世代別有権者数と投票者数

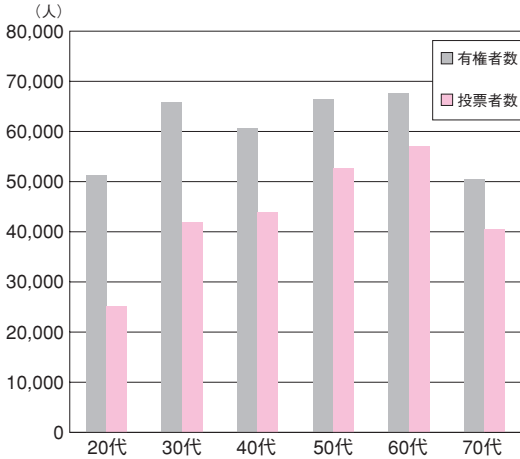
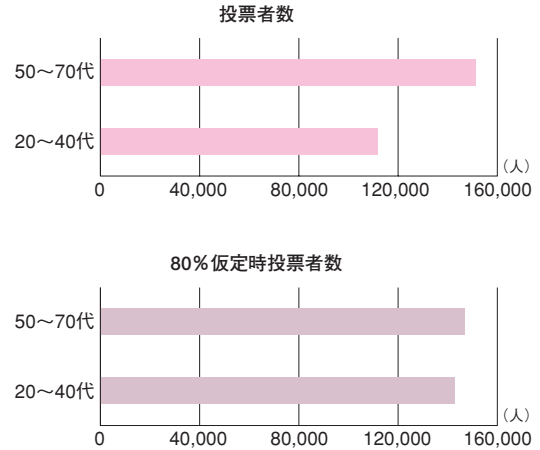


図2 第45回衆議院議員総選挙（2009年）における世代別投票者数（上）と80%投票仮定時の投票者数（下）



出典：図1、2とも総務省ホームページ「第45回衆議院議員総選挙における年齢別投票状況」より。

注）全国の50,978投票区のなかから、188投票区（47都道府県×4投票区）を抽出し、抽出された投票区について年齢別に調査した数値である。年齢は、平成2009年8月30日現在の満年齢である。投票者数は、抽出した投票区の区域内の選挙人のうち小選挙区選挙の投票を行った者の数であり、期日前投票及び不在者投票を行った者の数を含む。

のに対して、20~40代の実際の投票者数と80%仮定時投票者数は、約1.3倍の開きを読み取れる。

はじめはあえて資料なしで政策（公約）を考えさせた。すると、日本の政治的な課題をとらえた公約が多く見られた。しかし資料を配り再び考えさせると、ほとんどの班が高齢者に向けた政策（公約）を考え、発表した。理由は「高齢者の人たちは選挙にくることが資料でわかり、その人たちの支持を得なければ落選するから」や「若い人たちに向けた政策を打ち出しても、選挙にこないのでは意味がない」というような趣旨の発言があった。

はじめから資料を与えて考えさせるのではなく、まずは自由な発想のなかで学習課題に取り組み、そして、資料の読み取りを通して教師が気づかせたい内容に近づける工夫を行った。

## 4 授業実践の成果

授業を実践してみて、ほとんどの生徒に、

「選挙に行かないと自分たち（若い世代）の声は反映されない」「選挙に行かないと高齢者に対しての政策が多くなり、若い世代の意見が反映されない社会になる」といった記述がみられた。こちらが「投票率の低下が問題」ということを言葉で説明するより、政治家（候補者）の立場に立って選挙公約を考えるシミュレーションを通して、投票率の低下の問題をより身近に感じ、自分自身にとってとても深刻な問題であるということを感じていた点においては成果があった。

投票率の低下という表面的な問題提起に終わるだけでなく、この問題の本質をつかむことはできたと感じるが、主権者として生徒自身が今後どのように社会に参画していくかというところまでは到達できなかった。ただ選挙に行くだけではなく、「よりよい社会を築く」ために生徒自身が主権者という自覚をもって社会に参画する意識の大切さに気づくような授業を展開できるかが今後の課題である。